慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	支那工業の現状に就て(二)
Sub Title	
Author	及川, 恒忠
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1924
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.18, No.3 (1924. 3) ,p.422(118)- 444(140)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19240314-0118

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

支那工業の現狀に就て合う

及 川 恒

修删収捨を加へたり。兹に諒察を請ふ 本文は前號を承くるものにして | 闘表挿入の位置並に之が説明に關する辭句は適宜に嗣號を承くるものにして、能ふ限り原文の結構に沿ひ

動發展時期

する態度が與えたる影響に就て言はんか。 らざるの天災と視たり。 ひて風を成し、 を以てす。兵匪の刦掠、官吏の敲詐、幾ぎ相習 各省の軍人官吏は特に其省内の實業を保護し能 はざるのみならず、且つ之に加ゆるに削剝摧殘 之を破壌し、 無きは無く 民國元年より 之を受くる者亦同じく倖免す可 以て繼續せし 清末の質業獎勵政策を舉げて蓋 十年に至りてい 故に政府の實業に對待 め 政争兵亂年に之 たるもの無し。 過去

だ民國二年の舊額に復せざりさ。 年に在りては總額四億零三百萬兩にして 分の一を減じ、 一五)には跌落して四億五千四萬兩に至り、約五 にして、 の工業は干載逢 ふ難き 自動發展の 機會を 得た して欧戦略は滅したるに因り、 要求を以て國人の排斥を受く。 所無きなり。幸にして歐洲戰爭發生し、 國に歸りて戎に從ひ、日本商品又二十一ケ條の 不肖によりて分 民國の十ヶ年は 六十年の中 (一九一三年)の輸入總額は五億七千餘萬兩 試に輸出入統計に就て之を觀るに、 吾人共和を酷愛すると雖も、其諱を用ゆる は來源斷絕し、 次年は五億六千九百餘萬兩なり。 ち清末の九ヶ年は黄金時代にして、 歐戦終はれるの期に在りても未 かれたる所、 暗黒時代たり。 遠東の商業に從事せる者亦 國體と關係あるな てゝに於て支那 民國四年 是れ當局者の賢 輸出は民國二 民國二 欧米の 二九 年

以て が如きてと無かりしならん。 收むるが如きを不可とせず、 たらんには、未だ甞て日本の坐して漁人の利を 果して上下心を一つにし、力を併せて之に赴き 岐らべて多敗とす。 宣なるかな此時國內實業の進步は一日千里なり 工場の成立を登録(註冊)したる者他の時期に さは共に本國の工業に依賴せざる可らざりき。 3 は 舊額を超過したり。 しなり。故に民國三年より七年に至る五年の間、 未だ背て減少せざりしかば、 供給の缺乏と、當さに輸出す可き貨物の増 之に機ぐに袁氏の称帝、 歐戰終はれるの期に在りても皆民國二年 六百萬兩に至り 洲戰爭初めて起 民に率日無く 此れ誠に天與の機に 此時期に當りて國內の需 b たるに因 安徽直隷の交鋒を 自ら暴薬に甘ずる 然るに第二次革命 んぞ生息敎養の暇 國内市場に對す は即ち逐年増 り跌落して三億 して、 加 -Jin

> 造成せる。百萬富翁は千百を以て計かるに視し 庇蔭を藉りて尚は自由に發展し、 やあら 潤に沾ふを得たりしのみ。 相去ること道里を以て計かる可ら h 惟だ少許の通商口岸の工業、 日本の **歐戦に因りて** 歐洲戰爭の餘 ざる 人

利にして、 りし者は、 ありたり。 に因りて富を致したる 同年倒閉し、 多くは利なく、 じ機を停むるに至り、 廠は積貨山の如く、人過ぎるも問ふ無く、爐を閉 兩年は實に支那工業の恐慌時代と爲す。 歐戰旣に終りて險象即ち生じたり。 重ねて旋渦に入りたる者、乃ち時に聞く所 能く永久に存在し曇花の一現たらざ 支那の工業が戰爭參加より得たる 甚だ少なきを竊かに恐る 其他の工業も亦皆消沈せり。歐戰 上海數十年來の三大油廠も竟に 紡績工場は經費大にして 實業家にして 営業失敗 九 製鐵工

第七八松

| | 支那工業の現狀に就て

盛なれざも復た衰ふの象なり。試に九年度の對 て六分の一を増し、 も暫らく衰ふの象にして、支那の 勢あり。 を得ざるなり。 ず其能力は特久する能はずい **發展港しきに過ぎ、勞銀(工資)** るを以て、 どするに足らず。 貿易に就て之を曰へば、、輸入は前年に 雖も、然かも工業の根本にして動揺すれば必 部分は質は投機事業の影響受けたるものなり 減じ、 場の外國貨物増加せしを以て需要を市價とは 亦遠く米日の増高せるに如かず、 失れ戦後の工業恐慌は米、 たりしが、 遂に不振を形らはしたるなり。 支那の工業は本來發展に限あり、勞銀 **繼續するに難し、收束す可らざる** 輸出は反て前年に較らぶるに六 故に米、 同じからざるものはい 過去六十年中最高の額を示 日の恐慌は常に盛なる 獨り投機を責むる 日皆之を有し、 恐慌は 高きに過ぎた 一方徒らに 暫らく 比較 其中も 米日は L

分の一を減じたり。

袁未だ帝たらずして死し、所謂 千五. たるにも拘らず、 國五年袁氏の帝制將さに成らんとし、 因りて職を去り、 幾くもなくして張氏は袁が帝制を謀圖し たり。 に見らはさんと欲し、 資本利子を補給する旨を定めたる規程)を定め 業獎勵の爲め政府に於て一定の期間內、特定の なし。 て製造を提唱し、二千萬元を以て其基金に擬し 變更あり 『棉鐡政策』を宣佈し、『工業保息費章程』(工 本期中政府の工業に對する施設は少許の官制 も亦帝制とともに同じ 百元を列したり。 當時耳目一新、頗る朝氣ありたりしも、 民國三年張謇農商部に長たるの時、 たるを除けば、 預算中に竟に商工業振興資金 棉鐵政策亦陳迹となりぬ。民 政府財政困難の際に 然るに雲南義を起し、 竟に政策の言ふ可 く滅し、 『振興商工業資 繼任の執 好を國民 たるに 當り

能はずと雖も、然かも一つは官辨 者此を紙上空談の預算に並らぶることすら亦再 随時の参考に 商力に出で、 日を同じうして語る可らざるなり。 元より 所あるのみ。 民國十年に上海の商總會が設立したる商品 く可らざるに至りた 『南洋勘業會』の如く規模博大なる **備ふるものにして性質旣に** 一つは短期の觀覺に供 設備收羅皆國中の僅かに見る 民間の提唱事業は にし て一つ <u>、</u> n

三、新工業の統計

手續又完備せず、據りて信史と爲すに足らざるるのみ。しかも僅に出して第五次に至り、調査は、自ら其統計を知らざる可らず。惜ゐかな吾は、自ら其統計を知らざる可らず。惜ゐかな吾となる所は惟だ『農商統計』、農商部出版す)あ五本に於ける支那工業の盛衰を研究せんと欲せ工業の統計は工業の數量的歷史たり。最近五

報告の輸出入統計に就き五十年來の工業盛衰を 收羅宏博にして四人固より及ぶ能はず、支那人 那の工業に最近支那經濟」(善生永助著)、 の書も亦日本人著はす所を以て詳藍と爲す。『支 農商統計を轉鈔せり。 對に視察す)。惟だ工業に關するものは仍ほ多く れざも あり、 の工業で原料』及『支經濟大全』 る日人の年鑑英文に勝さるに似たり ふる所の『支那年鑑』は僅に出して第三囘に至 紗廠一覽表』あるのみにして、 ▶ものは大抵書籍新聞に散見せるものなり。 人刊する所の者は英文の 五十年の統計を求むるに至りては、たと海關 亦如かざること甚だ遠きを自ら知れるなり。 實業界自ら刊するものは紡績業に『 **巳に出して一九二二年に至る。日本人與** (第四囘のものあり)、收羅の宏く備は 外人の支那工業を論ずる The China 此外間ま見らる 等の如し。 (譯者は反 Year Book 写支那 全國 n

録・支那工業の規狀に就て

第三號

新工業の盛衰を代表するに最も足るものはい

工廠設立年別(工業會社)

して逃り 可きな、 ば必ずや過去の統計を研究して其成敗の因を得 察し來るを知り、 略ば窺ひ得るのみ。本篇は其重要なるものを撰 びて之れを述べたり。故を温ね新を知り、 は吾 以て工業の進步を求めんとせ 往を 毎年設立せらるく工廠數に如くは莫し。たい此

∄		統元年	三十四	=+==	= + + -	3 + -	緒三十	以前ニナ	e el		組代謀せし	國實業團體	此の	や過去のか
八二一	1101	一六四六	3 .	四二三	***************************************		二十六四		全國工廠數	(第一表) 全國工	しむる勿からんこ	體早く此事に着手	理明なること甚し	統計を研究して其
六五七	五八九		四五八		四八九	33%	七九四	七三九〇	全國工廠數	工廠の成立年別	さを。	し、日本人を	し、甚だ願ふら	穴成敗の因を得
<u>,</u>	二 六	二六		ヨカ	i i	一八	九		登錄工廠		に下の如し。	部に詳録ある	得難し。註册	種統計は全國
3	七四	***	五五五	四九	六五	四七	٨		總錄公司			を以て甚だ信ず	(登錄)せる工廠	の遺算なきを求め
				: :					***			し。今分録する	ては農商	んご欲するも亦

工廠數は皆其内に在らず	加へて編成したり	つ二年以後四ヶ年	度の農商統計に就	表中第一行の全		備考	***	九	7							民國 元年	1
在らず。	。而して元年以前	に於ける毎年の新	き其矛盾せる歳	國工廠成立年別は、	たるものにして、第	譯者曰ふ、第一行目	二四七六五					五五六	六七二	一 〇 二 七	一二四九	11001	
	肌に閉鎖せる	可工廠を附け	を改正し、且	1、民國元年	して、第二行目の全國工廠數	一行目の全國工廠數は本文中に述	一六九五七					五五六	六七二	八九一	-0-九	1 二八二	•
厳数に過ぎた	殿が閉鎖した	八となる可し	ケ年に於て閉	十五に咬らぶ	は民國五年度の農	中に述べられたる	四七五			二九	三四	=======================================	Ħ.O	五七	三七	_ - - ti	
b	るととなり、	。則ち毎年	鎖したる丁	れば、民	一商統計なり。	如く民國元年	一一六七	一六七		八八	八 〇	九八八	九九	八五	in in	Ō,	•
此數にして果たして確宜なり	遠〜毎年成立の新工	平均一千五百八十のエ	一廠は、其數七千八百零	國元年より五年に至る五		の農商統計に著者が収拾を加へ											

之を元年度の農商部調査の總數二萬四千七百六 年別にして、 第二行は民國五年調査(農商部の)の工廠成立 其總數一萬六千九百五十七なり今

第十八卷

(四二七)

雜

支那工業の現狀に就て

せる處甚だ多し。

例へば民國元年度調査工廠の

の千分率)は必ずや大なり。たと農商統計中矛盾

とすれば、支那の工業死亡率(毎年閉鎖する工廠

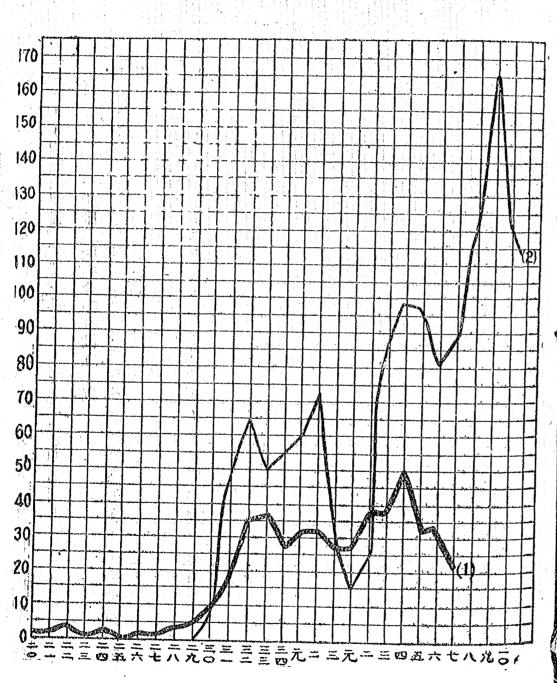
第三號 1 11

第四行は t2 b 二年度の調査は反て増 以は著者が先きに附言したるが如く著者自身が こと疑無し。 農商統計に改正を加へたる爲なり)なるに、民國 千零三十九(前掲第一表第一行の數字と異る所 の中ち光緒三十年に成立したるものは、凡そ一 ることを得。 を日ふ)の總數なり。 す可く未だ據て定論を爲すに足らざるなり。 表中の第三行 必ず民國元年の調査の周からざる爲めなる 既に死滅せる工廠復活するの理絶無なれ 毎年註冊せる公司 故に前述の統計は僅に参考の用に は毎年註冊せる工廠數にして、 して一干一百六十六さし 其趨勢は左記第一圖に (工業會社以外の會

業の時期にして、 光緒二十年より二十八年に至る間は外國人與 より 三十二年及三十三年に盛にして、三十 宣統三年に至る間は工業發展の第一峰 毎年の工廠敷基だ少し。二十

> 四年に至り稍々衰へたり。蓋し光緒母子世を逝 きたるの影響とす。 辛亥革命の影響なり 宣統三年乃至民國元年に至りて復た衰へた 宣統元年復た興起の象あり 第三號

盛にして、 る時に當る)、全國の註冊公司は民國四年五年に 四年に盛にして(歐洲戰爭の第二年目に當る) 民國七年に衰へたるに 期に至りては情形略ば異れ 相同じきを致したるなり。 總數の線とは起落大に相應はしきを致す。 工業の盛衰と全國質業の盛衰とは、 以前の兩時期に在りでは、 發展の第二峰に入る。 政府獎勵の時期 幾ど尋常の數に倍し、 此即ち全國に取引所 此に至りて終りを告げ、 年に至りては乃ち大に盛 (歐洲戰爭停止せられた 9 然るに自動發展の時 工廠の線で註册公司 自動發展の時代なり (交易所)、信託 工業と完全に背 即ち工業は民國 其趨勢大に 工業 即ち



第十八卷 (四三九)川 安那工業の現狀に就て

十八卷 (四三〇) 雑 録 支那工業の現狀に就

三號

其結果は遂に民國十年の經濟恐慌、工業衰落を司が風の如く起り雲の如く湧きたるの時なり。

、工業衰落を 可らざる亦見る可し。 の時なり。 醸成したるなり。徒らに投機商業を興すの侍む

一 八 八 二 八 二 八 八 八 八 八 八 六 六 八 二 九 一八九六 一八九五 九〇一 别 # ツ マ 箱・幹+ツァ 道 水 鹽 製 製タ製 잾 コ 氷 袋酒藏 Mi 酒 釀 藏 冷 粉白漂·酸 硝

腐

如此	ᆵ	元	三三三	司	я; О	무	電	-E.	八	云云	晃	異	芸	됐.	一	Λu	JE,	þ
				· ~ · * ~ · · · · · · · · · · · · · · · · · · 														_
		gand :																
^				_=									=					
94	···						=											
								-			54.							
<u> </u>	: .							-										
- <u>13</u>		,=	•				=				/			36	==			
보_		<u> </u>			=						. :·.		- :					_
=_					: : 	- :												
=	·						• • •	-4.1									cord .	_
Эř.				<u> </u>										===				
=_																	. :	
四八	크	=		test	24	깯	Л	표	puj	t/3/4	=3	-:				-		
룡	=1			· 		<u> </u>								- <u> </u>				
ë_				-		=	=		-	=			=	trøt	- 145 c			
<u> </u>	==	か	79	Ħ	Ξ	ਬ	д	=	===	르	9 5.	=:	=	=:		:		
<u>^</u>	표	37.	31.	= =	244	르	===	[27]	=	test	Э1,		<u> </u>	ાં	_=.	=		
냔	· 												=		፠			<u>.</u>
[25]					•						-							
ध्य	<u> </u>			:	_=:	- 114		1 121										
<u> 14</u>							1								_=_	pyt:		
												[12]						_
#					믘		1				14		멸	=;				
<u>-13</u>														ᆵ	0-4			-
兰_	=:	ार्थ	≅.	bris	<u></u>	ナレ	Ju			==	test	=	#3	=				
굨_			=3									эі.			==			_
<u></u>	=					=		14		<u> -</u>								_
:==_		• ,		è														è
六				41.		=					=:	py)	'	=	=			
五					딾				=					=				
數	九	八	七	バ	Ti.	NA	===	=		0	九	八	七	六	Ai.	М	=	
atu)	九一	九一	九一	九一六	九二	九一四	九一		九一	儿	九〇	九〇	九〇七	九〇	九〇五	九〇四	九〇三	
	-1.	,		-1.	-10		-1.	-1.	٠	- 10		.1.	J.		.1.	_1_	J.	

來るを得たるなり。原書中、 從ひたり。第一表の註册工廠數は即ち此表より 所にして、今、遠東時報の一九二一年十月に出 を示めす。此れ農商統計を始めてし各書の無き したる『支那工業公司増刊』が摘篇せるものに 上記第二表は註冊工廠の分類並に其設立年別 工廠の設立年別に

> じうし能はざる可し。讀者意を會せば可なるの より飜譯したるが故に、亦恐らく他書と盡く同 も、参考乏しさに苦しむ。 して重出兩肢なる者あり、 工業の各名稱は英文 選擇を加へんどする

(第三表) 註册工廠種數分期比較

九石鹼蠟燭	撑	從	六 協 *	× N	H	三麵粉	二棉紡粉綠	一	工業種別	分 切
×	Ju	4	36.						公司數) 三十四 光緒二
次、000	1、公置0、000	區~1前0~000	八四五、000	人置0,000	1,4#0,000	11701107000	九、二大六、300	1,0人至,000	資金本	三十四年 (六年) 光緒二十九年ョリ
						7	入		公司數	四民年國
	000,041	1、次次第、000				1、六八四、000	八,0至0,000	#.O.OOO	(元本	四年(三年)
æ.	프	=		==	1	÷	 -L3	Æ .	公司數	七民
1]华夏~000	三六五、000	111111000	五0,000	九0,000		二、八五〇、〇〇〇	000,011d, r.	AA3,000	資元水	七年(三年)

第三表は全國で	雅 父 級 建 水 製 製 製 製 印 炭 製 櫃 戲 ガ マ	
民安原をお進國工廠の分期	酸 ラッ 業 通 業 築 道 紙 糖 蛋 鹽 桐 刷 水 茶 詰 エ ヌ チ	
分別比較		
	1107年11日7000 1107000 1171117000 1171117000 1171117000 1171117000	
がに從ひたり。原表は三部	国	
を分	元	

の工業を原料』(安原美佐雄著) の摘編せるもの 第十八卷 (回河河) 雜 支那工業の現狀に就て 合して一表とせり。

第三號

而して銀兩は農商統計の例

に從ひたり。原表は三部を分ちたれざも

二二九

の三倍にしてい 二年より 均資本は反て第一期を以て最大と爲す。 政府獎勵時期の極盛時代に る所の時 して第三期に於ける毎年平均の公司數は第二 を含 依り庫平六銭六分七厘を以て銀元に換算した 聞の内に在らざるなり。 公司(鐵工の中にあり 第三期は自動發展時期の極盛時代とす。而 表中掲げたるもの虚く工業會社たるにあら 表末の交通と鑛業の如きは、 一期は光緒二十九年より三十四年に至 四年に 期は比較に甚だ便なるが故之を錄した かなる見る可し。 所なりや更に知る可らず。 第二期も亦第一期に倍せり。 至る自動發展時期の初盛時代)の資本は二千萬元 たと何期 して、第二期は民 又雑業なる項目は何 固より本篇の 12 10 各廠の平 - 萬元に 分けた 其 圳 3 13

元)時期に比較して多きを爲すなり。(約二十五萬に依ると雖も、然かも此數を去るも、仍は他のして、平均數をして高きを加へしむるに足れる

るなり。 大なり。 したり。 て其速度は各く同じからず、 は最も速にして、 ば即ち小工廠多きを増したるなり。 は、三期を通じて見るに、 したり 三期中繼續して發展せる工業に五あ を雖 生絲紡織、 又第二第三の兩期に於ては、 大低は官商合辨なるが故に資本雄厚た b 資本は反て減少せり 資本も亦増加甚だ多し。 電業、 第一期に在りて最も マッチの三業の資本 茲に第四表に分述 棉業の進步 易言すれ 工廠數增 **b**

(第四表) 五種註冊工業分期比較

ッチ	地 刻 彩	1 1 1 1 1 1	後 種工	
三大		正二六四六	數平	第二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十
二〇九、八三三	五九〇,〇〇〇	三八五、〇〇〇	均每次公本司不	
	T.	76	公毎	第
	四一三九、〇〇〇	万 当	数 均	und und
Эт (О (O O O 元	資公 本 平	期
3 3		五一六六七七	公司數	第
七三,000	一六八,000	一七六、五〇〇元	均資公司不	S. W.

(11) 工廠内容の比較

らざるが故に、 して之を曰へば、動力を用ゆる工廠の數は逐年 力の情形を示めすものなり。五年度の調査全か 知る可さのみ。 にのみ見るを得可し。 加 するを言ひてい 工廠の内容に關する統計は は皆得可らず。 而して註册したる工廠は皆動力を用ゆる 動力を用ひざる工廠の數は增減甚だ微 全國を代表する能はず、 左に掲ぐる第五表は全國工業動 而かも此點に注意せず、 政府も社會も日に工業を提 然れざも元年以前、 たい農商統計の 大概に 其效 Ħ. rþ

を言へば、米國の一ナイアガラ瀑布が現在既に に及ばずと。 全國の動力使用工廠の資本は米國の辟支堡の大全國の動力使用工廠の資本は米國の辟支堡の大きである。 年度の機關總數は二千零三十にして、 を他國に較ぶるに尚ほ逮ばざること甚だ遠く五 動力機關と馬力數も亦逐年增加 十一萬一千八百五十一なり。 る 尚は得可らざればなり。 馬力數は二十八萬左右に在り 比言質瞪するに易からず、 蓋し資本比較的に多ければなり。 たい馬力を以て之 上海セ て、 然れとも之 馬力總數 1 全支那 かしる ン

第三號 1三一

第十八卷

(五三四)

の需要の二倍に供して余り有るに足る。

				1	•
				ı	í
					•
				•	
				٠	
				(: 11 1 1 1 1 N) .	•
(第丘長)				4	
	-			ł	ı
_)	
	7			ı	ĺ
50				•	i
χj				ı	
				4	ŀ
r				Į	
łľ.					ì
	•				ľ
=				. 1	ļ
ΛT	•				
~				٠	•
			ſ.		
Ξ.				٠.	
				4	ĺ
(S)	٠.			9	ś
	١.			•	
	i.		'n		1
				1	Į
					•
100				-	1
				/	
					ı
**					
				- 2	
ما				•	
ميم		>			
1:/•				t	
TX.	化化二硫氧化甲二苯 医水子的			۲	
~~				-	
í٠				1	
"				λ	۱
~				•	
L.	į.				
"					
,					
r.					
1.					
ш					
٠.					
1					
X					

マロケーをよってい		其他人機關數	(馬力	電 機 機 関 戦	(馬力	滋氣機 機 剛 數	合計	工 場 數/動力不川	(助力使用	
ノカノ代品に見	三三四〇		二、大五三		二〇、三五二	三七九	二〇、七四九	この、三人六	三六三	民
	OFFER		二〇.1九八	一四六	四三、四四八	二九六	二一七二三	二二、三六六	三四七	Į,
			= = = =						3 to 0	民、三、
	一二二七七	三八一	一六、一〇五	1.7	五三、五九七	三五三	二〇、七四六	二〇、二五八	四八八	民。四、
	六、八三七	- , O甘O	一七、二六九	三一八	八七、七四五	六四二	一六、九五九	一六、四六七	四九〇	民, 五,

下記算六表は各省の動力狀況及職工數を示めて第一にして、山東、廣東之に次ぐ。機械工業發達第一にして、山東、廣東之に次ぐ。機械工業發達第一にして、山東、廣東之に次ぐ。 手工業發達の區なればなり。 動力を用ひさる工廠は沿流省を以
が江、廣東之に次ぎ、支那の工業最盛の省を為せ

り。第八表は各省工廠(註冊)の比較を示めすも常のにして之に依れば、江蘇省は幾ざ各類に於て皆多數を占め、直隷、浙江、廣東之に次ぎたり。表末に附したる資本の比較は仍は遠東時報の工業公司増刊より分類計算して之を得たり。恐らくは原書の記載と必ずしも盡く合せず。第七表くは原書の記載と必ずしも盡く合せず。第七表は即ち註冊公司の總數を示めしたり。大體に於て

も多し。工業と他の宜業との關係や、固より此て、註册公司最も多き省は其註册工廠の數亦最 の如く其れ密切なり。

		ţ.	1	P) <u>C.</u>	1														
第十八卷	***	i 1	i N	5 湖		i di	和	ì	安	江	Щ) M	î di			奉	直	凉	省	
八卷	骝	黛	f Py	南	江.	江	逛	四	徽	淼	四	南	東	龍江		天	隸	兆	別	
(四三七) 雜			四六五	六八六	1. 2. 2.		一、二三九	一、 六〇	三八六	一、二八八八	一、二九四	八四二	九三六	二七六	六三七、	七八三	二、二六七		工場數	第六表)
鉄・安那工業の				***	- +					一四九								***	動力使用	各省の動力状況
支那工業の現狀に就て			四六五	六八六	J.	近、近〇一	一二九	一六二〇	三八六	一、二三九	一、二九三	八三九	五二五	二七六	スミー	七五九	二(三四	ニーナ	動力不用	況及職工數
		一,01六	三、〇四九	二六〇	三八〇五一	一二二、大六三		二八六、一六九	六"〇九六	一二二〇三九	五〇、六八〇	四、九四一	一至、八八六	二一、六四六	二二、七一九	八〇、八〇六	10、1六二	六、一三五	石炭消費額	
第三號	四一七	二、三二九	五、〇五八	ニニ、カカー	三六。七九〇	七三、七三九	二三、〇九五	六〇、八〇こ	二四、六八〇	一四二、六七八	一四、〇四七	一四、八九一	二四、七七四	三、七五一	一〇九一一	一二、九〇八	四三、二八三	六、四八三	男女職工數	

MM

外遠爾河州南四東川疆蘭四南北江雄 七四一三四五五〇〇五四

二九

证安江山河山黑吉泰直京 (第七表) 西徽蘇西南東江林天隸兆 (四三八) 一、 九五五 四 六 五 三八三三七 五二七七公公 三八三三七 五 八五四九司 公司註册工廠省別比較 0 支那工業の現狀に就て 註册工廠 五 一 五 九 四 三 一一四一三四九五 一八、八四三 一、九五五 二十七七七七 七 五 四 五 一、三〇四、五八二 一、九三八、三二六一八四、〇九二 一八二、四二二 七七二五九四二二 版総七八五四〇五三三 數 一三六〇 八五〇 五六三

六一九、七二九 七二九 九二九

六〇六

第三號

一三四

註卅工廠省別(民國八年度)

三年度の調査を用ひたり。 備考註冊公司註冊工廠數は皆農商部統計によれり。工廠總數は五年度農商統計により、西南五省は別に

第十八卷

(四三九)

雜

餘

安那工業の現狀に就て

(第八表)

第三號

三三正

二四五六

資本総		I	硝 酸。源	冷	Ň	麻	W	製	X X	Ų	7	煉	***************************************	マツチ幹・	y
初	數	K	白粉	戯	酒	袋	氷	逛	স	碱	棉	觚	道	箱	チ
4.341.100	===												<u></u>		=
27.761.100	101 111.					يك			垩			==			244
2.651.600	-n.				14										<u> </u>
3.350.000	pa														_=
1.653 000														1.1.1	
6.690.000	. 트								tru)						==
2.639.000	proj			_				-							0.0
500.000	γu											k I i ik E lin ser E i			프
40.856.000	3i.						_		નક						=
1.883.000	=			, e.;					Ħť						
828.000	5														
2.123.000	110						_		917						
8.175.300	K			5											
32.864.000	九												:11 <u> </u>		_≕
1.671.000	=									5 1 5 1 3 2					
75.300	.E.3.														三
28.200															
	0							-41						<u>:</u>	
1.631.000	-13							: .							-23
5.617.860	E				-			1 11	i di				_ <u>=</u>		**
5.000													51		· ·
	0	•							30 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1						-
	0							1111						····	
2.340.000	एख					÷	14 			•					
	记到	_		Л	36		,	074	-	=	=		7F.		四
					inch				trá			=	-12		
		1 1 100 000 1 1100 000	Ę	20、二班0	政公、000	M00,000	はつ、文化の	七二二五〇	2000	000 FXI	京五、新CO	当1九、玉〇〇	40次、次00	、 次 次 次	CO#, M11
		000	11,000	芸	99	000	14°C	5	000	8	91.	OC	00		9
		· ·							-1:	:					
•	•	=		000°1114	11,200,000	100,000	=	11公里 000	000 000 4	K00,000	% \$' 000	公司、1007	五. 郑知思, 000		•
		ō	11,000	30	. Ö	Ö	טטט וווו ו	36		0.0	4,0	70	, E	·	\$:,
		8	Ö	8	Ö	20		8 8	ē	8 8	8	8	8	} <	•

	\$ }		紡織	製	石灰・セメント	ナラス	磁器		推		獅	捣 米·米 W	W.	数	烟·石	印刷及文具			第十八卷
	ST FA	(来	₩ 	# 	P		TAF	.AL	YILL	XIL.	ADJ.	粉	I.	7 45	檢	——	- 10-		
			=======================================								<u> </u>						兆隸	京直	
-		<i>=:</i>						•			<u></u>				<u>.53</u>		天	泰	
-																Ħ	林	吉	雜
		1.1									=						777	龍黑	
		八				=				=	97£						東	111	錄
			=						=4		띡		1.				南	र्या	
		===	<u></u>														Ptj	111	支
	九	. . =	54 56	=					**	3	70	وبه	pol		÷	7 '4	蔴	江	支那工
			D93									=		. l. i			徽	安	樂
	•	_=					=									11-3	西	江	の現
-		<u></u>															建	羂	狀
=	· 九	pus	*							<u> </u>			-		=:	179	江.	浙	狀に就
	-	<u> </u>	bys				1/2				=		_=				#	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	て
******		179									=			•			南	湖	
•														· ·		-	(H)	陜	
-					-				-						,	<u> </u>	離	#	
-					1			÷,				·					羅	新	
-		_=		=						=	:	•		, ;		_==	東	四	
•	_=	<u>+</u>	Эí.						_=_								财	廣	
													-		:		闸	製	
	-			7.77								:					州	世	
-			=			-												海	
=	ë		<u></u>	.63	(<u>124</u>)	ma				٠	さ	=	~		===		額	總	
M 1 000	1 本国 100万		五七八,000	五八七、000	*<1,000	000、第四1	140,000	五五、000		118117030	11111 7000	11:10,000		型無0,000	公元 000	000,1111			第三腹
000	点、1八年、0.0	14,100,000	國公、111人、000	图~1011~000	000、知時。11	展到1000	1,157,000	图图3、(00	000_110_00	000、年本中、0	000,014,41	二、八六九、000	111、显然中、000	000,00k	1、沿三八、000	さ、ハーカーが、	資本	組額	三六

第十八卷 (四四二) 錄 支那工業の現狀に就て

(III) 工廠の喊工

亦最も多し。 之を日へば、 総染工業は職工最も多く、 女工も

第三號

三三八

女工は百分の三十五を佔む。 工廠中、男工は約總數の百分の六十五を占め 工廠の類別を以て

(第九表)

ΣÜ T.

风二百 五四 年年年年年 三三四、一五二四四八五二 四一八、三〇四 三九一、一二六 四二一、九九四 三三三、三九八六 二三九、七九〇 二四五、〇七六 六四八、五二四 六三〇、八九〇 今 六六一、七八四 計 五六五、二五五

化 機械及工具 工廠類別 合 % W. 工物 (第十表) 民國元年 大六二、七八四 10八元00 二三八、四九七 1.15%、阿克丁 公子で 五十七,五 ☆ M 010 八八十五二 1.四人一三日四 ---(1)完日 (五) 九四、七四五 二次、大儿七 工廠職工の逐年比較 以一四一五一四 ニスつ公式 元(三三 1四一年次次 MO.00 是一定三重 九二六 三九1、1二六 三六、九九七 二六一〇五四 九一、照50 ニュ、九七八 北八四山 男) I 11500 5九八 分 一六年、二七四 恶"二六 三二六 一三、班五七 三、九五七 五八 六四八八二七五 一一九、七八九 5000八大大大 |第一次十 1点,0九百 三五、0八五 二宝、九六五 近次斑"二远斑 110元0年 四八四八四八 11年七一三〇九 14.40 11次~040 0 FI . 1 Æ,

二倍余にして、山東は則ち男女工約相等し。其 工廠に在りては、女工男工に較らべて多さこと 除の各省に於ては男工は皆女工より多く、黑龍 更に第十一表に就て之を觀るに、廣東江蘇の

**** 江 低なり。而して男工の勞銀は大抵皆女工より多 し。勞銀は江蘇を以て最高とし、貴州陜西は最 最も多きものは約四倍余なり。 熱河、 綏遠の三地の 工廠には 竟に女工な

(第十一表) 各省男女工の數及勞銀

(本表は五年度の農商統計を根據さし、三年度の數もあり)

第十八		安	江	pl)	河		黑龍		泰	道	京.	4	
没	西	徽	蔴	讻	南	東	江	林	天	隷	兆	क्षा	
(四四三) 雜	三六二五七	1 1 0 八 0	四四二八六	1 六二二八		一七七九五	111100	八五六四	一七六三九	三九三三九	七〇五七	男工	
鉄						コニーセス						¢	
支那工業の現狀に就て	五八四七六	二七二八四	一四四八八〇	一七四九二	一四二六六	一九九七一	31100	八五九七	一七七四九	四二八五四	七三一六	數	
	三五	· 四	五三	E 1.		<u>;</u>	二六	四五	三田田	二九	O E	最多	毎
	T.	二六		<u>`</u> =		九九	-ti	010	八	四四	四四	最工少	H
	五五) 	三五	= -	<u>;</u>	六二六		0	五	二六	八八九	最太高	勞
第三號	['] 九	一六	二人人	了 入				O X	=	 五.) \ \ \ \ \ \ \ \ \	最高 最少工	銀

一三九

1七二〇二

三五九〇二

九〇八三

五一四〇〇三九八四〇三 三二〇七五 七九一六五 三八三九 三五五五 二〇六三六 二四九三 一七八七五 四一八二 六七四 九一七 三四四四四三三五六七〇 二六 八二二 九六二 二八八 三七 二二二二二二二 五八二二五八二二五八二十二二二四 二六 <u></u> 四 二二二二二二〇四五七二 二五三四三二三九〇 Ŋ O t 二二八四八 〇一〇〇二二二 九四九八五二四 O H Q t

爾河州南西東川區

二六九八

四四

六四

三六七

元〇七

一六一四八

四二二五五五

八一九八

四正

一四三三三

一五三八 三五三七

三五五

六三七、五五 1

三九三、二九二

二四四、二五九

=

一二九四

六七四

二七九

0 ! !!

四〇

勢州松坂に於ける銀札 の沿革(上)

陽

で共に弄錢家以外には經濟史研究上左程重要視 で其藩札の發行の財政上に於ける影響又はこれ に比し)にして其樣式種類の頗る多さに亘れる し、蓋し藩札は其發行極めて不規則 が流通に關する研究の大成せられたるもの鮮 にてこれが研究の結果及にせられたるものあれ の手により する藩札に關する研究は從來弄錢家乃至好事家 しとせず、 時代に於ける財政史上重要なる地位を有 或は圓鍬をして或は値附として坊間 て可成精細なる研究の成れるものな

> せられざり 今こへに記述せんとするは紀州徳川侯の勢力 しものあるが故ならむか

究の に在り、 川時代に於ける財政史上の一部門たる藩札の研 を綜合し略其事情を知り得たり、幸にして徳 多少當時の狀況を知るに便なる古文書の殘れる 坂の銀札の發行事情と其經過を略述せんどする 内にありて商業上重要なる地位にありし伊勢松 一助ともならば筆者の幸とする と て 余の家祖紀藩の御用商人たりし關係上 ろ

第二節 紀州に於ける三井氏

に依りて利を占めたるは人の知るところなるべ 俟たずと雖も往昔に於ては亦今日に於けると等 工業に其資力を應用して得たるもの多きは言を しく種々複雑なる經營法に依り其多様なる放資 今日の三井家が富を蓄積し得たるは啻に往昔 の蓄財のみにあらず、 主として近代的商業

四